

特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会

第65回関東支部教育研修会



平成25年10月6日（日）

於 サンシャインシティ文化会館5階特別ホール

Time schedule

- 9:30 受付開始
- 9:45 支部長挨拶
- 10:00 シンポジウム
「ペリオプラスティックサージェリー」 座長：小延 裕之先生
- シンポジスト 三條 直哉先生
雨宮 啓 先生
根本 康子先生
中村 茂人先生
- 12:00 ディスカッション・質疑応答
- 12:30 企業説明会 (株) モリタ
株式会社 ビーブランド・メディコーデンタル
アサヒプリテック株式会社
- Lunch 昼食のご用意はありませんので近隣の施設をご利用ください。
- 14:00 学術委員会からのお知らせ
- 14:15 特別講演
『歯周病治療の中で矯正を考える』 座長：清水 宏康先生
加治 初彦 先生
- 15:20 Coffee break
- 16:30 質疑応答
- 16:50 閉会
- 17:30 懇親会 サンシャインシティー
文化会館709号室

シンポジウム「ペリオプラステックサージェリー」

三條直哉先生（三條歯科医院）

略歴

- 2003年 日本大学松戸歯学部卒業
- 2005年 医療法人社団歯幸会 吉野歯科医院勤務
- 2010年 三條歯科医院開設

抄録

「結合組織移植の基礎知識再考」

歯肉退縮は日常臨床の中で頻繁に遭遇する病態です。その原因は様々であり、その素因、誘因を把握し、原因に対する対処を行った後に術式選択が行われるべきです。

今回は、臨床で頻繁に行われる術式である Coronally advanced flap, modified Langer technique, tunneling technique の歴史と術式の詳細、適応症を症例を通して再確認して頂ければと考えております。

雨宮 啓先生（藤沢歯科ペリオ・インプラントセンター）

略歴

- 1999年 東京歯科大学歯学部卒業
- 2002年 日本歯科麻酔学会認定医第 880 号
- 2003年 東京歯科大学大学院（歯科麻酔学）修了
- 2003年 白鳥歯科インプラントセンター勤務
- 2007年 日本臨床歯周病学会認定医第 107 号
- 2009年 日本歯周病学会歯周病専門医第 982 号
- 2009年 藤沢歯科ペリオ・インプラントセンター開設
- 2010年 日本口腔インプラント学会専門医第 630 号

抄録

天然歯の修復治療において、審美的な修復補綴物を装着することは、非常に大切な要素であるが、一方で、歯肉との調和を図ることは、口腔内における長期予後考えたとき、審美的側面だけではなく、機能的な側面において大変重要な要素となってくる。特に上顎前歯部においては、顔貌や口唇と比較して歯肉はどの位置にあるのが良いか。また、インサイザルエッジポジションはどの位置が適切かといった診断はもちろん、最終的には個々の歯の臨床症状を見極めたうえで、ジンジバルレベルを歯冠側へ移動するのか、あるいは根尖側に移動するのかといった治療方針を決定することとなる。

そこで今回、ジンジバルレベルが、Coronalposition に存在するケースと Apicalposition に存在するケースを対比しながら、それぞれの治療方針の決定に至ったプロセスに考察を加

えて、皆様とディスカッションしたいと思います。

根本康子先生（表参道デンタルオフィス）

略歴

- 1992年 新潟大学歯学部卒業
- 1992年 新潟大学歯学部第一補綴学講座入局
- 1998年 明倫短期大学勤務
- 2002年 やまぶき歯科開設
- 2011年 表参道デンタルオフィス開設

抄録

「前歯部インプラント周囲のソフトティッシュマネージメント」

前歯部インプラント修復後に引き起こる合併症のひとつに唇側歯肉の退縮があり、それによる審美障害により患者が受ける精神的ダメージは大きい。唇側歯肉の退縮を防ぐための条件として、インプラントの唇側に十分な骨幅(2mm以上)が存在することは重要な条件のひとつであるが、加えて唇側の十分な軟組織の厚み、特に角化歯肉の存在も、インプラントの唇側組織の安定をはかり歯肉退縮を防止する上で重要であると考えられる。しかしながら、垂直的・水平的な骨造成によって MGJ が歯冠側移動し角化歯肉が減少することは、日常臨床でよく遭遇することである。臼歯部インプラントの場合は、遊離歯肉移植によりシンプルかつ確実に角化歯肉を獲得することができるが、前歯部は審美領域ゆえ、切開部の癒痕やグラフトアイランドなどの審美的な問題を考慮する必要がある。よってより慎重に角化歯肉および軟組織の厚みを獲得する為の術式を選択することが大切である。

今回は、前歯部インプラント周囲の審美的配慮をふまえた角化歯肉獲得と軟組織の厚みの増大を図る為の術式の選択を、残存する角化歯肉幅と軟組織の量により分類し症例と共に提示する

中村茂人先生（デンタルクリニックアレーズ）

略歴

- 2000年 日本大学松戸歯学部卒業
- 2008年 デンタルクリニックアレーズ銀座勤務
- 2009年 デンタルクリニックアレーズ銀座引継ぎ開業

抄録

「審美領域インプラントにおける補綴から見た歯周組織形成」

前歯部領域のインプラント治療では、当然審美性が要求される。審美性の観点から考えると、唇側の骨の厚みや歯肉の厚みが影響することが分かっている。そのためには抜歯後の骨の吸収を如何に抑えられるか、歯肉の厚みを如何に獲得出来るかが重要となる。また、インプラントの埋入位置は口蓋側に寄せていきたい。しかしながら、ここで忘れてはならないのが前歯部歯列も顎口腔系の組織の一部であり、重要な機能を兼ね備えているということであ

る。前歯部の機能としての役割から補綴をみていくと、安定した顎位で適正な切歯路の角度があり、臼歯部に側方干渉を与えない様な形態を考慮すべきである。顎運動や舌運動を阻害しないで臼歯部を守る機能を与え、更に審美性を獲得していくインプラント補綴では、埋入位置は非常に狭い領域に限局され、歯周組織の構築が必要とされるケースが多い。演者は、これらの事を獲得するために事前の診査診断によって病因論の把握と治療目標の明確化によって『補綴主導型のテッシュマネージメント』が鍵となると考えている。

今回、この『補綴主導型のテッシュマネージメント』という観点から、咬合を考えた補綴の作製から逆算して審美性を考えた場合、歯周組織をどのように構築するのか？そして埋入ポジションが重要となる訳であるが、正確に埋入するための手技について考察を述べたい。

特別講演会

[歯周病治療の中で矯正を考える]

加治 初彦 先生



人口ボリュームが大きい、いわゆる団塊の世代のグループが、今引退の時を迎えている。程度の差はあるだろうが、歯科の分野でのこのグループの最大の問題は歯周病である。さらに、矯正との関わりでは感染のコントロールが終了した口腔内で歯周組織の破壊と共に、病的に移動してしまった歯をいかに取り扱うかが大きなテーマとなっている。

昔は「年を重ねれば入れ歯になるのは当たり前」であり、入れ歯は年寄りのアイコンとも言えた。抵抗感があっても「しょうがない」と受け入れる人々も多かっただろう。しかし現在豊かな社会を生きてきて、老後を迎えたこの世代の要求は①できるだけ自分の歯を保存したい、②入れ歯にたくない(固定式装置にしたい)、という2点に集約される。患者側にあるこのようなニーズを高い次元で実現するために、歯周病患者に対応した矯正の実践は有効な手段であると言える。この種の矯正は部分矯正ではあるが、残存歯を全て動的治療の対象にすることも多い。一見すると歯周病のない成長発育期の全顎矯正治療と同じように見えるかもしれないが、その治療目標や移動様式は大きく異なっていることが多い。歯周病患者に適用されるこのような矯正は部分矯正の範疇ではあるが、移動対象歯が多数になりやすいため、筆者は「多数歯のLOT(limited orthodontic treatment)」と呼んでいる。

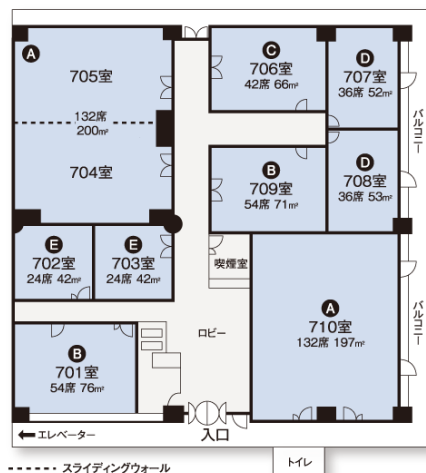
新しい世代のニーズに対して、今のところ供給サイドとしての歯科医はエビデンスに基づいた歯周病のコントロールとインプラントによる欠損補綴という手段で対応している。しかし、両者を調和させて治療の品質向上に貢献できる「多数歯のLOT」については、矯正専門医も歯周病専門医も十分な対応が出来ているとは言い難い。これからの時代、現場で欠かせない分野の一つとしての視点から、歯周病治療の中での矯正治療を特に「多数歯のLOT」を中心に解説していきたい。

懇親会のお知らせ

時間：17：30～

場所：サンシャインシティ文化会館709号室

会費：3000円



直近の開催予定

H26年3月9日(日) 第3回関東9大学・日本臨床歯周病学会関東支部合同研修会
於；昭和大学上條講堂

《協賛企業》

デンツプライ IH 株式会社

ヒューフレディ・ジャパン 株式会社

ティーアンドケー (株)

(株) モリタ

株式会社 ビーブランド・メディコーデンタル

デンタルシステムズ株式会社

アサヒプリテック株式会社

(株) ヒョーロン・パブリッシャーズ

日本メディカルテクノロジー株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

P&G 株式会社

(有)ウエイブレングス

ストローマン・ジャパン株式会社

以上13社(順不同)